

Z-63-A [第一問] 簿記論 解答速報

問1

(ア)	②	減価償却累計額
(イ)	②	備品
(ウ)	②	1,000
(エ)	②	備品売却損

(オ)	②	当座
(カ)	②	200,000
(キ)	②	150,000

予想配点：2点×7個 合計14点

問2

- (1) 本店集中計算制度の目的は、支店間取引を本店が管理することである。ここで、各支店における本店仕入及び本店売上による照合により、支店間取引の管理ができれば問題は無いことになる。また、経済的には、支店間取引である以上、本店において実際取引でない仕入及び売上が計上することは、取引の経済的事実と異なることとなる。

予想配点：1点

(2)

本支店合併精算表

(単位：円)

勘定科目	決算整理後残高試算表						合併整理記入		本支店合併後残高試算表	
	本店		A支店		B支店		借方	貸方	借方	貸方
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方				
現金	2,220		1,380		660		210		4,470	①
普通預金	3,410		1,524		740				5,674	
売掛金	5,400		1,200		1,400		300		7,700	①
繰越X商品	2,300		—		330		550		3,180	①
繰越Y商品	1,320		620		1,210		80		3,230	①
備品	2,800		1,600		1,400				5,800	
土地	12,000								12,000	
A支店	210					590	300			80 ①
B支店	1,690		780					190	2,280	
買掛金		3,300		2,100			190			5,210 ①
未払金		2,450		1,390		1,280	260			4,860 ①
貸倒引当金		108		24			6			154
減価償却累計額		1,120		480		140				1,740
本店				300		880		1,020		2,200 ①
繰延内部利益								340		340
資本金		10,000								10,000
利益準備金		1,300								1,300
繰越利益剰余金		870								870
仕入	20,700		12,700						33,400	
本店仕入					4,070		550	550	4,070	
A支店仕入	1,980				2,640			80	4,540	
その他の費用	3,970		2,196		1,550			6	7,710	①
内部利益控除							340		340	①
売上		33,430		8,800		10,170				52,400
本店売上				3,300						3,300
B支店売上		4,400		4,400						8,800
その他の収益		1,022		1,206		912				3,140
合計	58,000	58,000	22,000	22,000	14,000	14,000	2,486	2,486	94,394	94,394

予想配点：1点×10個 合計10点

Z-63-A [第二問] 簿記論 解答速報

問 1

(1)	①	②	80 個
	②	②	20 個
(2)	ア	②	17,900 円
	イ	②	5,900 円
(3)	ア	②	14,000 円
	イ	②	6,100 円
(4)		①	192,400 円
(5)	ア	①	4,900 円
	イ	①	400 円

予想配点：2点×6個

1点×3個 合計15点

問 2

(1)		③	280,000 千円
(2)		③	0 千円
(3)		②	24,000 千円
(4)		②	6,000 千円

予想配点：3点×2個

2点×2個 合計10点

## Z-63-A [第三問] 簿記論 解答速報

決算整理後残高試算表

(単位：円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
現 金	① 3,616,600	買 掛 金	① 37,774,000
当 座 預 金	① 40,806,900	未 払 法 人 税 等	① 30,831,393
受 取 手 形	① 46,800,000	未 払 消 費 税 等	① 6,398,700
売 掛 金	① 36,504,200	為 替 予 約	① 350,000
商 品	① 24,550,000	そ の 他 の 流 動 負 債	29,414,880
前 払 費 用	① 50,000	貸 倒 引 当 金	① 6,573,216
建 物	① 105,386,800	社 債	① 9,800,000
車 両 運 搬 具	① 3,795,000	リ ー ス 債 務	① 2,775,096
備 品	① 25,690,000	繰 延 税 金 負 債	① 873,600
土 地	① 105,980,000	退 職 給 付 引 当 金	① 186,753,300
リ ー ス 資 産	① 2,903,920	資 本 金	① 139,600,000
投 資 有 価 証 券	① 89,295,136	資 本 準 備 金	① 26,090,000
保 証 金	① 4,500,000	繰 越 利 益 剰 余 金	① 61,388,900
破 産 更 生 債 権 等	① 5,000,000	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	① 1,310,400
繰 延 税 金 資 産	① 76,257,320	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	① △ 90,000
売 上 原 価	① 260,070,500	新 株 予 約 権	① 600,000
人 件 費	① 89,629,900	売 上	① 470,357,000
貸 倒 引 当 金 繰 入	① 6,366,816	有 価 証 券 利 息	① 375,136
そ の 他 の 販 売 費	① 34,822,380	受 取 配 当 金	1,572,520
減 価 償 却 費	① 10,048,580	為 替 差 益	① 610,000
[ の れ ん 償 却 額 ]	① 600,000	[ 抱 合 せ 株 式 消 滅 差 益 ]	① 800,000
支 払 利 息	① 719,996	法 人 税 等 調 整 額	① 10,453,800
社 債 利 息	① 2,500,000		
売 上 割 引	① 2,068,000		
為 替 差 損	① 0		
固 定 資 産 売 却 損	① 300,000		
有 価 証 券 評 価 損	① 600,000		
商 品 廃 棄 損	① 50,500		
投 資 有 価 証 券 評 価 損	① 14,784,000		
法 人 税 等	① 30,915,393		
合 計	1,024,611,941	合 計	1,024,611,941

予想配点：1点×50個 合計50点

## 第 63 回 税理士試験 簿記論 講評

### 第一問

問 1 固定資産の記帳方法の相違、当座の一勘定制及び二勘定制の相違を仕訳の穴埋め形式による出題となりました。固定資産は売却の処理により相違を問う出題でしたが、売却時点における減価償却を計上した場合としない場合の相違も問われていたため、戸惑った受験生もいたかもしれませんが、未処理であるという見方により解答ができる箇所となりました。また、当座の一勘定制と二勘定制は、金額の流れを把握できれば容易に解答できる箇所となりました。

この問は確実に解答をしてもらいたい箇所になります。

問 2 本支店会計における理論と個別決算後の金額からの本支店合併後残高試算表の作成となりました。理論は本店集中計算制度の理解を問う出題でしたが、多くの受験生が解答内容を適切に捉えるのが難しい内容でした。精算表は、未達事項を合併手続により修正する方法でした。未達事項の難易度は高くありませんでしたが、商品に関しては難解な箇所となりました。そのため、商品以外で得点を積み重ねる必要がありました。

### 第二問

問 1 商品売買取引において補助簿の照合による数量及び金額の推定となりました。難易度は高くありませんが、照合すべき事項が多くあり手間を要する問題であるとともに、1つのミスが連鎖して失点に繋がるため、得点ができていないことが予想されます。

問 2 共用資産を含んだ減損会計の出題となりましたが、基本的な出題であったため得点してもらいたい箇所になります。

### 第三問

決算修正による決算整理後残高試算表の作成となりました。各項目とも手間を要する出題でしたが、その中でも難易度の低い箇所を解答し、得点を積み重ねる必要がありました。

当座預金、固定資産、有価証券、転換社債型新株予約権付社債、リース会計を中心に解答する必要があります。

### 予想合格ライン

全体的にボリュームが多めの出題となりました。制限時間内で難易度が低く手間の要しない箇所を効率よく解答し、答案用紙に反映することが必要となりました。ネットスクールの予想配点による各問題の点数は以下のとおりになります。

第一問	第二問	第三問	合計
19～21点	12～16点	19～23点	50～60点

ボーダーラインは 50 点、合格確実ラインが 60 点となります。